

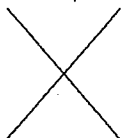
前期  
28.8.18

平成二十九年 度

教科・領域教育専攻 言語系コース（国語）

試験問題表紙

解答上の注意

1. 表紙一枚、問題用紙五枚、解答用紙四枚があるかどうかを確認すること。
2. 国語科教育（問題一）・国語学（問題二）・近代文学（問題三）・古典文学（問題四）の四分野のうちから一分野を選択し、解答すること。
3. 「日本語教育」分野志望者は、必ず「問題二」を選択すること。
4. 選択した分野を、解答用紙（その一）にある選択受験分野表の選択分野欄に○印を入れて示すこと。
5. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入すること。  
選択しない問題の解答用紙には、用紙全面に「」を大きく表示すること。
6. すべての解答用紙の受験番号欄に受験番号を必ず記入すること。
7. 試験終了後は解答用紙のみを回収するので、解答用紙以外は、すべて持ち帰ること。

教科・領域教育専攻 言語系コース (国語)  
試験問題 (国語科教育) 問題用紙全五枚 (その一)

問題一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権の関係により掲載いたしません



※「日本語教育」分野志望者は、この問題を選択してください。

問題二 次の問いに答えなさい。

問一 次の(ア)～(エ)の四つの語句の中から二つを選び、それぞれ説明しなさい。選択した語句は、記号を解答用紙に記しなさい。

(ア) 可能動詞

(イ) 学年別漢字配当表

(ウ) ミニマル・ペア

(エ) ロール・プレイ

問二 次の二つの問いに答えなさい。

① 日本語の「とうとう」と「やっと」の意味の違いを、具体例を挙げて説明しなさい。

② 日本語のラ抜きことばについて、知るところを述べなさい。

問三 日本語の会話に見られる「あいづち」の特徴について、具体例を挙げつつ説明しなさい。

また、教育において、「あいづち」をどのように扱うべきか。国語科教育または日本語教育の立場から具体的に論じなさい。

教科・領域教育専攻 言語系コース (国語)  
試験問題 (近代文学) 問題用紙全五枚 (その四)

問題三 近代文学に関する次の問いに答えなさい。

問一 次の物語の「語り手」について分析しなさい。

著作権の関係により掲載いたしません

問二 次の事項の中から二つを選択し、日本文学史および国文学研究の歴史を踏まえて具体的に説明しなさい。なお、選択した事項の番号を解答欄の上部に記すこと。

- ① 期待の地平
- ② 雑誌『青鞥』
- ③ 私小説
- ④ 座談会「近代の超克」
- ⑤ 永井荷風とその文学

教科・領域教育専攻 言語系コース（国語）  
試験問題（古典文学） 問題用紙全五枚（その五）

問題四 次の『竹取物語』かぐや姫昇天の場面を読んで、後の問いに答えなさい。

天人の中に、持たせたる箱あり。天の羽衣入れり。又あるは、不死のくすり入れり。一人の天人言ふ、「壺なる御くすりたてまつれ。きたなき所のもの、きこしめしたれば、御心地あしからむ物ぞ」とて、持てよりたれば、わづか嘗め給て、すこし形見とて、ぬぎおく衣きぬに包まんとすれば、ある天人、包ませず、御衣みぞをとり出て、着せんとす。

（中略）

かぐや姫、「物しらぬことなの給そ」とて、いみじくしづかに、朝廷おほやけに御文たてまつり給。あわてぬさま也。

かく、あまたの人を賜ひて、とゞめさせ給へど、ゆるさぬ迎へまうできて、とりゐてまかりぬれば、口をしくなしき事。宮仕へつかうまつらずなりぬるも、かくわづらはしき身にて侍れば。心えずおぼしめされつらめども、心強く、うけたまはらずなりにし事、なめげなる物におぼしめしとゞめられぬるなん、心にとゞまり侍ぬる。

とて、

今はとて天の羽衣きるをりぞ君をあはれと思ひいでける

とて、壺の薬そへて、頭中将よびよせて奉らす。中将に、天人とりて伝ふ。中将とりつれば、ふと天の羽衣うち着せたてまつりつれば、翁を、「いとほしく、かなし」とおぼしつる事も失せぬ。此衣着つる人は、物思ひなく成にければ、車に乗りて、百人ばかり天人具して、昇りぬ。

（新日本古典文学大系『竹取物語 伊勢物語』へ一九九七年、岩波書店より一部改変）

問一 かぐや姫が「朝廷おほやけ」に差し上げた「御文」を、主語・目的語などを補いつつ、口語訳しなさい。

問二 『竹取物語』が描く「天」はどのような点が地上の世界と異なるのか、文中の語を引用しつつ、説明しなさい。

問三 『源氏物語』は『竹取物語』を「物語の出で来はじめの祖おや」と称しているが、その理由について、自分の思うところを述べなさい。

問四 『竹取物語』と同時代の文学について、具体的に作品名を挙げつつ、知るところを述べなさい。

問五 『竹取物語』と漢文学との関係について、知るところを述べなさい。